

レポート⑤

左利き用



左利き用鉛筆、右利き用鉛筆。

指の位置を教える溝が、利き手に合わせて、楕円形になっています。



左利き用ボールサインペン(ピンク)、
右利き用ボールサインペン(イエロー)
ボディに、利き手に合わせた溝(シール別添)がある。

レポート④で見たように、ドイツには、子ども向け万年筆に、左利き用があります。スタビロ社だけでなく、各社の製品にあります。

一般向けに売られている製品には左利き用とか右利き用とかはないようですから、万年筆入門期における特別配慮だと推測されます。

日本では、はさみ、カッターや包丁など、扱う時に危険を伴う道具には、以前から左利き用の製品を時々見かけました。が、これらは、もともとは、輸入品から始まったのではないのでしょうか。

現在でも、日本の保護者や教師の方々は、子どもの左利きを矯正したほうがよいですか、という質問をします。その時には、「理想は、両手利きです。」と答えています。

長崎大学教育学部の学生は、書字に関しては、1割弱が左利きです。その中の学生の一人が、「今からでも右利きに矯正したほうがよいですか」と深刻な表情で私に尋ねました。その時、私は、「自分が左利きでも右利きの子どもを指導できるようにになればよいです。」と答えました。当然、自分が右利きの場合は、左利きの子どもを指導できなくてはならないからです。

また、私の知人は、身体の痛みのために、右利きを休止し、左利きを実行しています。彼は、利き手の影響が過剰で、身体がゆがみ、痛みが出たそうです。だから、両方がバランスよく使えるようにするために、左手使いを実行しているのだそうです。

ドイツには、鉛筆にも、ボールペンにも左利き用があります。

それは、日本より、左利きの人口が多いことが最大の要因でしょう。が、個人の快適な生活のために、職人魂が動かされたのではないかしら。